

イスラームにおける崇拝の精神（その1）：崇拝と礼拝

説明： 崇拝の意味、そしてイスラームにおける礼拝の精神と目的。
より アブー アル=アラー"マウドゥーディ (IslamReligion.com編集)
掲載日時 04 Jun 2012 - 編集日時 14 Oct 2013

カテゴリ： [記事](#) > [崇拝行為とその実践](#) > [イスラーム的モラルと習慣](#)

イバーダ（崇拝）とはアラビア語のアブド（奴隷、しもべ）という言葉に由来し、服従を意味します。その言葉は、神があなたの主であり、あなたはかれのしもべであることであり、しもべが服従行為として行うこと、かれの主の喜びのために行うことは何でも、イバーダなのです。イスラームにおけるイバーダとは、広範なものです。もしあなたが下品な会話、嘘、悪意のある言葉、乱暴な言葉を避け、たとえ外見では世俗的に見えたとしても、真実を言い、良い言葉を話し、これらのことを神への服従のために行うなら、これも



イバーダです。もしあなたが、商業や経済において言葉と精神によって神の法に従い、あなたの両親、親戚、友人、その他あなたに関わる全ての人との関係において、神の法に従うのなら、あなたの全ての行動はイバーダです。あなたが貧者を助け、空腹の者たちに食べ物を与え、病人や災害にあった者たちに施し、それらの行動が自分自身の利益のためではなく、神のためであるなら、それらもイバーダ以外の何ものでもありません。あなたの経済活動、つまり、あなたが生活のために稼ぎ、扶養家族を養うための仕事においても、あなたが正直で誠実であり、神の法に従うのなら、それもイバーダです。つまり、あなたの人生の中で行う事は、それが神の法に従ったもので、あなたの心が神への畏怖に満ちており、それらの行動の最終的な目的が神の喜びを得ることであるのなら、それはイバーダとなるのです。

それゆえ、神への恐れからあなたが善行を行い、悪行を避けるのなら、それが人生のどの時点であっても、その活動がどの分野のものであっても、あなたはイスラームにおける義務を果たしていることになります。これがイバーダにおける最も大切なことなのです。つまりそれはアッラーの喜びのための絶対服従であり、あなたの人生にイスラームの造型をこむことであり、どんな小さなこともそれにあてはめることなのです。この目的を果たすために、形式的なイバーダ（崇拝活動）も課せられており、それがいわば訓練として役立っています。これらのイバーダは、イスラームという建築の柱となるのです。

サラ（礼拝）が主要でもっとも重要な義務です。では、サラとは何でしょう？ それはあなたが心をよせる信仰を一日に五回、くり返し新たにさせる礼拝のことです。早朝に起き、自らを清め、祈りのために神の御前に立ちます。礼拝の中でする様々な姿勢はまさに服従の精神を体現化したものです。様々な朗誦はあなたの神への約束を思い出させます。あなたは神の導きを求め、彼に繰り返し、神の怒りを買う行動を起こさないで済むようにと願います。主の啓典を読み上げ、預言者（彼の上に神の慈悲と祝福あれ）の真実を証言し、審判の日に対する信仰を自らに思い起こさせ、あなたの記憶の中で、あなたが主の前に立ち、自分の人生を説明しなければならないという事実を生かすのです。それが一日の始まりです。

そして、ムアッズィン（礼拝を呼びかける者）が礼拝の呼びかけをしてから数時間後、またあなたは神に従い、彼との約束を新たに守るのです。あなたは自分の世俗的な活動から数分離れ、神との対話を求めます。このことで、あなたの人生における本当の役割が思い出せるのです。こうして再び神に従った数時間後、また普段の活動から離れて神の前に立ちます。これもまた、あなたに自分の役割を思い出させ、あなたは信仰における契約に自分の気持ちを持っていくことができるのです。太陽が沈み、あたりが暗くなった時に、またあなたは礼拝という形で神の前に服従を示し、暗闇があたりを覆う時に、あなたが自らの役割と義務を忘れないようにするのです。そして眠りにつく前に自らの信仰を新たにし、神の前に額ずきます。そしてこれで一日の終わりです。礼拝の回数と時間帯のために、あなたは決して人生の意味を忘れず、世俗の中で道を失わないのです。

礼拝がどのように、あなたの信仰の基礎を固め、神に従うための正しい生活を可能にし、勇気と誠実さと目的意識と純粋な心と魂の発達、そしてモラルを与える信仰を新たにするのに役立っているかということを理解するのは簡単です。

ではそれがどのように達成されるか見てみましょう。ムスリムは預言者が教えた通りに身を清めます。そして預言者の教え通りに礼拝を行います。それはなぜでしょう？ それは単純に、預言者ムハンマドが神の使徒であるということを知っているからで、彼に余すところなく従うという義務を果たしているからです。どうしてわざとクルアーンを誤って朗読しないのでしょうか？ それは彼らはその啓典を神の言葉と考え、一文字誤ることが罪だと知っているからだと思いませんか？ 礼拝では、彼らは多くの言葉を静かに朗読しますが、朗読しなかったり、誤って朗読したとしても、それを確認する人などいません。しかし、彼らは決してわざと、そんなことはしません。なぜでしょうか？ それは彼らが神は常に彼らのことを見ており、彼らが朗読する全てを聞いており、隠された事も、公にされた事もすべて分かっていると信じているからです。

この記事のウェブアドレス：

<http://www.islamreligion.com/jp/articles/644>

Copyright © 2006-2013 www.IslamReligion.com. All rights reserved.